

令和7年10月21日

保護者の皆様

千葉市立稲毛小学校
校長 小田 滋

令和7年度 学校評価アンケート(前期)まとめについて

木々の色づきに秋の深まりを感じる季節となりました。保護者の皆様におかれましては、平素より本校の教育活動にご理解ご協力をいただき、ありがとうございます。

さて、先日ご回答いただきました学校評価アンケートの集計結果がまとまりましたので、ご報告いたします。結果は、今後の学校運営の参考とさせていただきます。なお、保護者の回答数は338(児童数431)で、回答率は78.4%でした。

児童用の質問内容		児童全体	低学年	中学年	高学年	保護者	教職員
「い」 いっぱい知りたい、やってみたい(知)							
1	学校での学習に、進んで楽しく取り組んでいますか。	3.4	3.6	3.4	3.2	3.2	3.1
2	友達や先生の話をしっかり聞いたり、相手にわかりやすく伝えたりしていますか。	3.4	3.6	3.4	3.3	2.9	3.2
3	ギガタブを活用して、楽しく学習に取り組んでいますか。	3.7	3.9	3.7	3.5	3.2	2.9
4	図書室や自分の本などを進んで読んでいますか。	3.3	3.6	3.4	2.9	2.7	2.9
「な」 なかよく生活、友達いっぱい作りたい(徳)							
5	友達や家族、地域の方などに進んであいさつをしていますか。	3.5	3.6	3.6	3.3	3.1	3.2
6	いじめをせず、友達に優しくしたり友達と仲良く過ごしたりしていますか。	3.6	3.8	3.7	3.5	3.4	3.4
7	みんなと気持ちよく生活できるよう、進んで考えたり行動したりしていますか。 (学校行事、係活動、清掃など)	3.5	3.8	3.5	3.3	3.2	3.4
「げ」 元気いっぱい、健康な心身になりたい(体)							
8	体育の学習などで進んで運動をしたり、休み時間や放課後に外遊びをしたりしていますか。	3.3	3.5	3.4	2.9	3.2	3.1
9	好き嫌いをせず、栄養バランスに気をつけて食事をしていますか。	3.4	3.4	3.4	3.3	2.9	3.5
10	交通安全のルールを守ったり、危険な目にあわないように過ごしたりしていますか。	3.7	3.8	3.7	3.6	3.4	3.5
「開かれた学校づくり」							
11	学校・学年だより等のおたよりやすぐーる配信、学校HP等によって、学校の教育活動を積極的に発信していると思いますか。					3.5	3.2
12	いじめや不登校の未然防止や早期発見、早期対応などに、適切に取り組んでいると思いますか。					3.2	3.5

今回の学校評価アンケートは、児童の自己評価項目をもとに、保護者用は児童の成長の見取りを、教職員用は自身の指導と支援の振り返りをそれぞれの項目として実施しました。以下の考察をもとに、子どもたちがさらに「い」「な」「げ」をバランスよく育みながら学校生活を送れるよう、全教職員で努めてまいります。今後ともご理解ご協力をよろしくお願いします。なお、あおぞら学級については、各学年の集計に数値を反映させています。

○青で表示してある部分・・・3.5以上

○赤で表示してある部分・・・3未満



「い」 いっぱい知りたい、やってみたい（知）について

児童の自己評価はおおむね高評価です。子どもたちが学校で過ごす時間の多くは学習の時間であると言えます。その時間を前向きに過ごせていることがわかり、学校としてうれしく思います。

この「知育」に関わる項目の中では、特に〈③ICTの活用〉の数値が高く表れています。一人一台端末（ギガタブ）が貸与されて今年度で6年目となりますが、これを活用した学習の仕方も定着しつつあります。ICTを活用した学習のメリットの1つとして「個別学習・協働学習への活用」が挙げられており、本校でも、ギガタブを使って個々の課題に応じた学習に取り組んだり、互いの考えを視覚的に共有してグループで課題解決を図ったりする際などに積極的に活用しています。

今後もさらに効果的な活用方法について教職員が研修を深め、一斉指導とのバランスを取りながら使用し、より主体的に学んだり友達と関わり合いながら学んだりできるよう、授業改善を図ってまいります。

〈④読書〉については、保護者・教職員の見立てと児童の見立てに差がある結果となっています。また児童でも、学年が上がるにしたがって評価が下がる傾向があることがうかがえます。本校では、朝学習の時間に「読書タイム」を設定したり、週2日の図書館指導員の勤務日を中心に図書室の利用やおすすめの本の読み聞かせを行ったりしています。また、学習の中でも教科書教材に関連した図書資料を活用するなどして読書活動の充実を図っていますが、それらの活動の様子を見てみると、本を身近に感じている児童とそうでない児童との二極化を感じることがあります。また、上で挙げた「ICTの活用」のデメリットとも言えますが、デジタルメディアの普及による読書離れも、この傾向の一因となるかもしれません。

読書には、本の世界に浸り想像力を豊かにするだけでなく、語彙力や集中力を高める働きがあるそうです。学校でも、引き続き読書の時間の確保や図書資料を活用した効果的な取組について、検討していきます。ぜひご家庭でも絵本の読み聞かせをしたり、一緒に読書をする時間を作ったりするなどして、お子さんに読書習慣が身に付くよう支えていただけますと幸いです。

「な」 なかよく生活、友達いっぱい作りたい（徳）について

この項目も児童の自己評価が非常に高く、特に〈⑥思いやり〉が、低中高学年がともに3.5以上の評価となっていることは、稲毛小学校の児童のよさが表れている部分であり、学校として大変うれしいことです。今後も、挨拶や言葉づかいなど、心豊かに学校生活を送る上で大切にすべきマナーや礼儀について、子どもたちが意識できるように支援していきます。また、互いの良さを認め合ったり協力して活動したりする場として、学級活動や異学年活動（なかよし活動）、委員会活動などを充実させることで、円滑な人間関係を形成するコミュニケーション能力の育成を図っていきます。

いじめや不登校などの生徒指導・教育相談に関わる問題の解消には、保護者の方との連携が不可欠です。お子さんが学校に自分の居場所を感じ安心して通えるよう、また保護者が安心して通わせられるよう、引き続き連携を密にし、未然防止・早期対応につなげていけるよう努めてまいります。本校ではスクールカウンセラーが週1回勤務しており、専門的なアドバイスを受けることができます。予約については、教頭または担任までご連絡ください。

「げ」 元気いっぱい、健康な心身になりたい（体）について

〈⑧運動〉については、上学年になるにつれて自己評価がやや下がっていることが課題として挙げられます。高学年になると校内で中心的な役割を担うことが増えるため、それらの準備や活動のために休み時間に外遊びをする機会が十分取れないこともあるかもしれません（活動に向かうこの姿勢は、高学年らしさの表れでもあると捉えています）。また今年度は特に、夏休み明けまで長く続いた猛暑の影響もあるのではないかと考えられます。今後は、体育学習において体を動かす時間をしっかり確保するとともに、全校で運動に取り組む「〇〇週間」などを企画することで運動に親しむ時間を意図的に設け、心身の調和のとれた成長を促していきます。

〈⑨食育〉では、保護者の数値がやや低く表れています。学校では、そら豆のさやむきなどで食材に関心をもたせたり、給食の時間に栄養士が各教室を回り、献立や食材、栄養について話したりすることを通して食育に取り組んでいます。また、秋休み明けに1年生保護者を対象に給食試食会を開きますが、ご家庭でもお子さんと給食について話題にしながら、食への関心をもたせていただけますとありがたいです。

〈⑩安全安心〉については、児童・保護者・教職員ともに非常に高い評価となっており、意識の高まっている点であることがうかがえます。学校でも「交通安全教室」や「地震・津波・火事対応の避難訓練」、「不審者対応訓練」などを定期的 to 実施し、子どもたち自身が自分の身を守る力を身に付けられるよう、引き続き指導支援してまいります。

「開かれた学校づくり」について

おおむね良好な評価となっていますが、〈⑫いじめ・不登校対応〉においてはより適切な連携が望まれていることがうかがえます。子どもたちが健全に育っていく上で、学校・家庭・地域の連携は欠かせません。引き続き、学校での取組をお知らせする機会を工夫しそれぞれと連携を図ることで、保護者や地域の皆様に信頼される学校づくりを、より一層推進していきたいと思います。

「稲毛小のやくそく」「ご意見」について

自由記述の欄には、学校、担任への感謝の言葉を多くいただきました。ありがとうございます。また、さまざまな観点からご意見もいただきました。これらについては学校全体で共有し、後期に向けて継続・改善できるよう検討していきたいと思います。